

【COC+地方創生推進事業における、新たな「地(知)の拠点(COC)大学」の認定】

【付帯事項】COC+大学として、地域(山口県)全体を取りまとめるのが困難な大学でも、過去の大学COC事業への申請で準備を進め、今回COC+事業の一部として、効果的かつ優れた全学的カリキュラム改革を提案する大学は、新たな「地(知)の拠点(COC)大学」として認定する。⇒ **徳山大学は新たなCOC大学**としての認定を受けました！

【徳山大学COC事業の目的】:山口県東部地域の「地(知)の拠点」として、COC+山口大学の「YFL育成事業」の一端を担い、YFL_Tokuyama(徳山大学版「やまぐち未来創生リーダー」)の育成をとおして、事業協働地域の活性化と地方創生に資する。

【広域周南都市圏を中心とする県東部の課題】

- 人口減少、域外流出(18~23歳)が顕著:
域内進学率の向上、若年層を対象とする**雇用吸収力のある地域づくり**、が重要課題
- コンビナートの重厚長大型製造業は、裾野が狭く雇用吸収力は小、就業の場として多様性に乏しい。
新たな(ソフト)産業や商業を育成し、**若年層に求心力のあるまちづくり**、が必要:



- ① 「健康・スポーツ」「マンガ・アニメ・映像」「国際交流」「ツーリズム・ホスピタリティ」等、**新たなコンテンツを対象とする(ソフト)産業やビジネスを振興**し、若者を引き付ける多様な文化を根付かせる必要。→「コンベンションセンター構想」
 - ② 「水素」(コンビナートの産物)活用による新エネルギー産業や、徳山下松港(国際バルク戦略港)を中心とする物流拠点、等の育成には、**それらを裾野で支えるサービス産業やビジネスの振興**が必須。
- 地域資源活用による中山間地域の振興や地域コミュニティの充実も、重要課題

【徳山大学の地域志向、COC大学としての資質】

- 「徳山大学」は、地元自治体・産業界の支援を受け創設(1971)された。公設民営型の大学で、その個性は『地域社会との協働・共生』に集約される。
- 「地域経済」「ビジネス」を中心に、地域課題「若年層の雇用創出につながる新たな(ソフト)産業創出」の解決に係る諸分野(スポーツマネジメント、知財(マンガ・アニメ・映像等)の開発とコンテンツビジネス、福祉、情報、心理学、その他)等の、教育・研究コンテンツを備えている。

【大学全体の教育改革】

- 教育理念「知・徳・体一体の教育」 ⇒ 『EQ教育』(2007~)
「徳」を、自分や他人の能力を知り、それらを活用しチームや社会全体にとって高い成果をあげる能力「EQ(心の知能指数)」と捉え、その意識的な育成を正課カリキュラムに取り入れてきた。
- 「COC機能強化」と「教育の質の転換」を、「地域課題の発見と解決をテーマとするアクティブラーニング(AL)によって実現するカリキュラム改革」に着手(2013~)

【AP事業(アクティブラーニング)採択】(2014~2018)

- 「地域課題解決型PBL」を4年間の継続的な学びとして体系化するカリキュラム改革と、
- 大学講義全般へのALの浸透を図る全学的・組織的な取組

【最重要課題】一連の改革の遂行を、地域住民・(中学や高校等)教育機関・企業など、広く**社会が実感・共有する状況を実現**し、「大学における学びへの信頼感」を高め、**地元から優秀な人材を獲得し、地域が求める人材を育成し還元**していく「**地域人材循環**」構造を構築し、「**地域活性化・地方創生**」への寄与を高めていくことが最重要課題。

EQ教育	【ALのベースとなる、認知的・社会的汎用能力の育成】 セルフコントロール・コミュニケーション チームビルディング・リーダーシップ 育成		
	■ 全授業を対象とするAL推進、進捗度とその成果の測定		
■ ALを4年間の継続的学びとして体系化するカリキュラム			
	1年次	2年次	3・4年次
教養ゼミ	地域ゼミⅠ・Ⅱ	専門ゼミⅠ・Ⅱ	
ALへの導入 (PBLリテラシー)	地域課題による AL体験	専門知識を 活用したPBL	

表1 AP事業(アクティブラーニング)の骨子

【徳山大学 COC 事業の目標値】

具体的目標：以下の目標値実現をとおして「地域人材循環」構造の確立をめざす

- (1) 本学学生就職率の向上：特に、県内就職率（H26年度は41%）を、H26年度に比べて15%以上増加、
- (2) 本学の学びのコンテンツ（コミュニティビジネス、6次産業化、福祉ビジネス、等）を活かした起業支援を行い、本事業終了年度までに起業3件、新規地域雇用創出数（5名増）を確保、
- (3) 県内入学者の比率（H26年度は23%）

を、H26年度比で10%以上増加、

- (4) 地域貢献型 PBL の実施実績¹（課題数と履修者数）に対し表2に示す目標値の達成をめざす。

表2：地域貢献型 PBL に関する定量的な達成目標

	平成 26 年度実績 課題数(履修者数)	平成 31 年度目標 課題数(履修者数)	(備考)
【地域ゼミ】	9 ゼミ(90人)	28 ゼミ(280人)	(H28より必修化、全員が経験)
【専門ゼミ】	7 テーマ(7人)	20 テーマ(40人)	(各ゼミ2人は地域課題を採用)

【事業協働地域が求める人材像・修得すべき能力】

「新規学卒者に期待される能力」(経団連アンケート、2010) ⇒ 中教審答申(2011)
『基礎的・汎用的能力』(学生の社会的・職業的自立に必要な能力の明確化)

この能力を、本学教育システムに照らし、EQ教育²を核として構成しなおす(右図)

- 「人間関係形成・社会形成能力」
 - 「自己理解・自己管理能力」
 - 「課題対応能力」
 - 「キャリアプランニング能力」
- ⇔ EQ教育! (2007~)
- ⇔ アクティブラーニング(AP事業、2014~)

この構造を念頭に、地域活性化人材に必要な「4つの力」と、その育成の為のカリキュラムを整理する:

【地域生涯キャリア教育プログラム(LCEP 周南: Lifelong Career Education Program)】

(1) 地域への理解と愛着: 周南地域の歴史・文化・産業・社会と経済・ビジネス・福祉に対する総合的な理解と分析力を備え、地域に対する愛着を持ち、自ら積極的にその課題の発見に努めることのできる能力。

講義科目:「地域文化講座」「地域と産業」「自治体学特論」

(2) EQ力をベースに、主体的学びを進めていく能力: 正しく自己を認識し制御する能力、他者に興味を持ちグループを形成する能力とそれを支えるコミュニケーション力、組織的に課題解決を行うためのスキル、チームビルディング・リーダーシップ・ソーシャリティー。これらのEQ力をベースに、主体的な学びを進めていく能力。講義科目:「EQ教育系」科目群

(3) 地域課題対応能力: 地域課題を発見・分析し、その課題を処理・解決することができる能力。社会の情報化に伴い、情報及び情報手段を主体的に選択し活用する能力も重要。講義科目:「教養ゼミ」「地域ゼミⅠ・Ⅱ」

「地域調査法」「商業学」、「SNS活用と地域課題解決」、「コミュニティ・ビジネス」、「アントレプレナー基礎」

(4) 地域キャリアプランニング能力: 自分自身が「何をやりたいのか」と「何ができるのか」を考え、「地域社会が必要としていること」との関連で、自分の進路を見定め、その実現に向けたPDCAを遂行していく能力。

講義科目:「キャリアプランニングⅠ」(インターンシップ基礎)、「キャリアプランニングⅡ」(地域キャリア形成)、「キャリアプランニングⅢ」(業界研究と企業分析)、「キャリアプランニングⅣ」(キャリア形成総括と将来設計)、「インターンシップ」、「インターンシップ研究」

図1



図1 EQを核として構成する社会的・職業的自立に必要な能力

¹大学と地域が協働して地域課題の発見と解決にあたる PBL 型授業を代表するのが「地域ゼミ」「専門ゼミ（地域課題をテーマとするもの）」。その活性度は、事業協働地域の課題解決へ向けた、COC 大学としての貢献度を表す。

²山口県における企業の人材ニーズ(職業安定業務月報やまぐち(2014))調査の結果によれば、職業別指数[求人数÷求職者数]は「感情労働」(2.6)>>「頭脳労働」(1.2)「肉體労働」(1.6)となり、「感情労働」の全国平均(2.0)に比較して大きな数値となっている。山口県での就業という観点からも、「EQ教育の重要性」を示すデータと解釈することができる！

【LCEP 周南と YFL 育成プログラムとの対応関係】



YFLの6つの力		YFL 創生プログラム と LCEP との関連 (●関連強 ▲関連弱)				YFL 育成授業
①	やまぐちの地域行政・経済、歴史を理解し、活用できる力	●			▲	やまぐちの行政・経済
②	グローバルな視点で何事にも誠実に取り組む力	●		▲		山口と世界
③	知的財産に関する情報を活用してイノベーションを起こす力			▲	●	知的財産入門
④	多様な関係者とコミュニケーションを保ちながら協働できる力		●	●		・サービスラーニング入門 ・地域協働型知識創造論
⑤	主体性と行動力を持って課題を発見し、解決できる力		●	●		・実践的社会調査法 ・インターンシップ (IS) 基礎 ・地域協働型 IS ・企業協働型 IS
⑥	専門知識を活かしてチャレンジすることができる能力			●	●	・サービスラーニング基礎 ・アントレプレナー基礎
前後期 (単位)	授業科目 <small>赤字は卒業要件における必修・選択必修</small>	(1) 地域理解と愛着 <small>(地域から世界へ)</small>	(2) EQ力をベースに主体的に学ぶ能力	(3) 地域課題対応能力	(4) 地域キャリアプランニング能力	YFL Tokuyama 履修証明取得要件 19 単位
【1 年次科目】						
前(2)	EQトレーニングⅠ (選必修 a)		●	○		必修(2)
前後(4)	教養ゼミ (必修)			●	○	必修(1)
後(2)	行動マネジメント		○	○		選択必修 a(2)
【2 年次科目】						
前(2)	地域文化講座	●			○	選択必修 b(2)
前(2)	EQトレーニングⅡ (選必修 a)		●	○		選択必修 a
前(2)	地域ゼミⅠ (選必修 b)	○	○	●		選択必修 a(2)
前(2)	キャリア PⅠ (インターンシップ基礎)	○			●	必修(2)
前(2)	インターンシップ研究			○	●	選(2以上)
前(2)	コミュニティビジネス	○		●	○	選
前(2)	アントレプレナー基礎			●	○	選
後(2)	地域と産業	●			○	選択必修 b
後(2)	地域調査法	○		●		選
後(4)	商業学			●	○	選
後(2)	SNS 活用と地域課題解決			●	○	選
後(2)	問題発見と解決 (選必修 a)		●	○		選択必修 a
後(2)	地域ゼミⅡ (選必修 b)	○	○	●		選択必修 e
後(2)	キャリア PⅡ (地域キャリア形成)	○			●	必修(2)
兼中(2)	インターンシップ	○			●	選
【3 年次以降の科目】						
前(2)	EQトレーニングⅢ (選必修 a)		●	○		選択必修 a
前(2)	キャリア PⅢ (地域業界・企業の分析)	○			●	必修(2)
後(2)	自治体学特論	●			○	選択必修 b
後(2)	プレゼンテーション (選必修 a)		○			選択必修 a
後(2)	キャリア PⅣ (キャリア形成と将来設計)	○			●	必修(2)

表 3 LCEP(徳山大学キャリア教育プログラム) ●印は主なもの、○印は従って考えられるものを示す。

【教育プログラム履修者数の算定と目標】(算出根拠は申請書 P21)

40% (H28 年度入学生) ➡ 約 60% (H31 年度入学生)

【COC 事業の実施体制】

■ COC 徳山大学(⇔COC+山口大学と連携)が中心となり

「地域生涯キャリア教育コンソーシアム」(LCEC 周南: Lifelong Career Education Consortium)を設立:

- ▶ 徳山大学・徳山高専・周南市の三者連携(2006年より包括的連携協定を締結し稼働中)、加えて
- ▶ 商工会議所、JC(青年会議所)、AYSA³、社会福祉協議会、西京銀行⁴等の代表者
- ▶ 地域教育機関(地元の中学・高校・周南市教委・県教委)
- ▶ 事業により雇用される、専属の「COC 推進コーディネーター(CD)」1名

によって構成し、

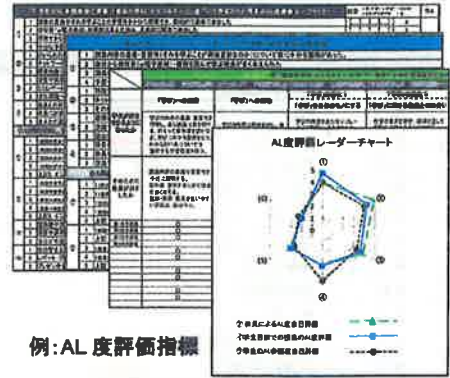
■ 目標値の達成に向けた 徳山大学と LCEC 周南の役割

① LCEC 周南:

- 地域企業の人材ニーズ・卒業生に対する満足度等、事業推進に必要なデータの収集、
- 地域の人材ニーズを考慮した LCEP の検討・評価・改善の提案、
- 地元企業の掘り起し、「インターンシップ」等を通じた人材マッチング、
- 中高大教育連携の推進。「キャリア教育」や「アクティブラーニング」をテーマとする、中高大の教員合同によるワークショップの開催。地域教育機関による LCEP や AL 推進手法の共有を図る。

② 徳山大学:

- LCEP による「新キャリア教育」を実施、YFL Tokuyama の育成をとおして「地域の活性化」を推進。
- 「4つの力」の測定法(既存の EQ・AL 指標に加え、就業力指標)を開発し、教育効果を可視化。その結果を、企業の人材ニーズと共に、「徳山大学キャリア形成支援学生カルテ(CASK)」に集積してデータベース化し、インターンシップや就職指導におけるマッチングに活用。学生の域内就職を推進していく。



改革構想

- (1) 地域生涯キャリア教育プログラム(LCEP周南:Lifelong Career Education Program)の開発と確立
- (2) 【LCEC周南-COC徳山大学】を中核とするLCEPの実効的推進と、山口県東部における人材循環構造の構築
- (3) COC+山口大学、西部COC県立大学、東部COC徳山大学を中心とする、全県的産官学連携への展開

YFL 育成プログラムと連動した新キャリア教育
「地域生涯キャリア教育プログラム (LCEP)」

(1) 地域理解と読書

(2) EQ力をベースに主体的に学ぶ能力

(3) 地域課題対応能力

(4) 地域キャリアプランニング能力

4つの力を
育んだ
社会人

- やまぐちへの愛着
- 生涯学び続ける力
- 大学と連携し地域を活性化

3・4年次

- 地域キャリアプランニングⅢ・Ⅳ
- インターンシップ

【地域での自己表現とキャリアプランニング】

2年次

- 地域文化講座・地域と産業
- 地域ゼミ
- 地域キャリアプランニングⅠ・Ⅱ
- Jコミュニティゼミ・PBL/プロジェクト
- SNS活用と地域課題解決

【地域貢献の体験と地理解】

1年次

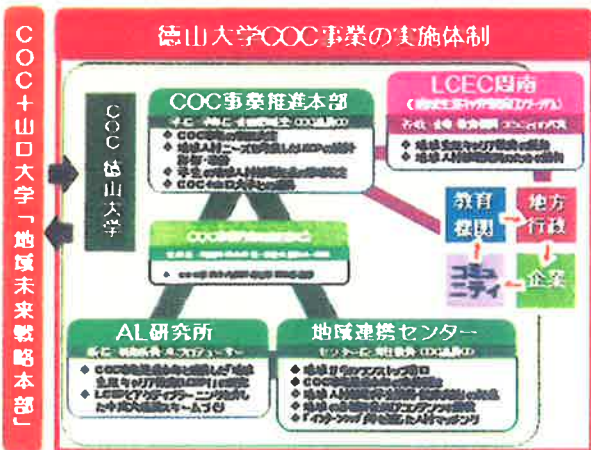
- EQ教育(自己認識・他者理解・コミュニケーション・チームワーク)
- 教養ゼミ(ALの導入PBL/プロジェクト/アビリティ)

【EQとアクティブラーニング】

中学・高校

- 「キャリア教育」と「AL」をテーマとする中高大連携
- 「地域ゼミ」の共同実施、地域志向性の涵養

アクティブラーニング(AH)



³NPO 法人 山口県アクティブシニア協会

⁴周南市に本店を構え、域内の中小企業金融の中核的地位を占める銀行